

## 「(し) そうだ」と韓国語三つの形式の対応関係

陸 心芬

(南山大学外国語教育センター)

### 要旨

本稿は、日本語の「(し) そうだ」と韓国語の3つの形式「<sup>kess t a</sup>ㄷㄹ다」と「<sup>i cul geot katt a</sup>ㄷ(을)것 같다」と「<sup>n eun</sup>ㄴ(은)/<sup>neun geot katt a</sup>는 것 같다」を取り上げ、その使い分けを明らかにすることを目的とする。

「(し) そうだ」は、事態がまだ実現されていない状況を前提とした表現であり、そのため意味が「様態」と「予測/推測」に分けられる。その2つの意味の違いによって、上記の韓国語の対応関係が異なることを明らかにした。方法として、①形容詞/状態動詞(様態)、②動作動詞(予測/推測)、③条件文との共起、④名詞への接続、⑤過去との共起、⑥後続文のキャンセル可・不可、⑦比喩・誇張表現、の7つの条件に分類して対応関係を探った。その結果「様態」と「予測/推測」の意味の違いは、認識した情報から発話までの距離が短く取られるか長く取られるかの違いによっていた。また、「(し) そうだ」が韓国語の三つの形式にそれぞれ対応可能な場合、場面によって対応可能な場合、まったく対応できない場合があることを区別し、それぞれに対応する意味の違いを述べた。

### 1. はじめに

日本語の「(し) そうだ」は、事態がまだ実現されていない状況を前提とした表現である。実現されていないという点から、推量や描写など、実際に現れる意味は様々である。大場(1999)は、推測、予測、様態、寸前、非実に区別して、意味の分析を行っている。また、森山・他(2000)は、「外への表れを通して、ものの特性・状態を捉える用法(状態把握様相)と、出来事態を予想させる様相を表す用法(出来把握様相)とがある」と述べ、寺村(1984)においても、「ある外面の様相が、通常、ある内面の状態をうかがわせるようなものであること、あるいは、何ごとか起こる直前であることをうかがわせるようなものである」と述べている。森山・他と寺村はいずれも、形容詞と状態動詞から作られる「状態把握様相」と、動作動詞から作られる「出来把握様相」を区別している。

韓国語において「(し) そうだ」に対応する形式も様々である。今回は代表的な表現として三つの形式、「<sup>kess t a</sup>ㄷㄹ다」<sup>1</sup>と「<sup>i cul geot katt a</sup>ㄷ(을)것 같다」と「<sup>n eun</sup>ㄴ(은)/<sup>neun geot katt a</sup>는 것 같다」<sup>2</sup>を取り上げること

<sup>1</sup> 「-ㄷㄹ-」という形態素は、主語が一人称で使われる場合は話し手の意志を表すが、それ以外の場合は推量を表す表現である。この「-ㄷㄹ다」は、「<sup>kess t a</sup>ㄷ(을)것 같다」と同じように事態がまだ実現されていないことを前提にしている。過去形は取らない。

<sup>2</sup> 「-<sup>geot katt a</sup>것 같다」は「<sup>geot katt a</sup>것(モノ)+<sup>katt a</sup>같다(同じだ)」で構成され、日本語の「~のようだ」に当てはまる形式である。この「-<sup>geot katt a</sup>것 같다」に「<sup>i cul geot katt a</sup>未来連体形 ㄷ(을)+<sup>geot katt a</sup>것 같다」と「<sup>n eun</sup>現在連体形 ㄴ(은)/<sup>neun geot katt a</sup>는+<sup>geot katt a</sup>것 같다」が結合して「~(し) そうだ」の意味になる。

とする<sup>3</sup>。

(1) j<sup>4</sup>: このリンゴ、おいしいそうだ。

k: 이 사과 {맛있겠다 / 맛있을 것 같다 / 맛있는 것 같다}.

{맛있다(おいしい)+겠(様態素)+다(叙述形) /

맛있다(おいしい)+으(添加音)+ㄹ(未来連体形)+것(物)+같다(同

じだ) /

맛있다(おいしい)+ㄴ(現在連体形)+것(物)+같다(同じだ)}

(2) j: あっ、荷物が落ちそうだ。 (森山・他(2000):154)

k: 아, 짐이 {떨어지겠다 / 떨어질 것 같다 / \*떨어치는 것 같다}.

{떨어지다(落ちる)+겠(様態素)+다(叙述形) /

떨어지다(落ちる)+ㄹ(未来連体形)+것(物)+같다(同じだ) /

떨어지다(落ちる)+ㄴ(現在連体形)+것(物)+같다(同じだ)}

(1) jは森山・他(2000)の「状態把握様相」の例で、(2) jは「出来把握様相」の例である。(1) jを訳すと(1) kのように三つの形式で表すことができる。ところが、(2) jを訳すと、(2) kのように「겠다/ㄹ 것 같다」は可能だが、「는 것 같다」では訳しにくい。では、これらの表現はどのような振る舞いの違いをみせるのだろうか。

## 2. 「(し) そうだ」の先行研究

### 2.1. 寺村(1984)

寺村(1984)は、「(し) そうだ」について、それがどの種類の動詞、形容詞に付くかによって、「ある対象が近くある動的事象が起こることを予想させるような様相を呈している」、あるいは「ある性質、内情が表面に現れている」と定義した。例えば、「嬉しい」などの感情形容詞の場合、(3) aのように「思う」「感じる」「なる」などの連用修飾には使えても、(3) bのように、動作の有り様、様態を限定するような連用修飾はできない。しかし、「(し) そうだ」が後接する場合(3) cのように言うことはできると述べた。<sup>5</sup>

(3) a. うれしく思う。

b. \*うれしく話ス。

c. うれしソウニ話ス。

(寺村(1984):239)

感情形容詞は、他人には分からず、それを内に持っている人が表に出す表情としてしか察知できないことから、(3) cのように言えるのは、「(し) そうだ」が「ある外面の様相が、通常、

未来連体形「ㄹ」は語幹が母音で終わるときに用い、「으」は語幹が子音で終わるときに異形態として現れる。説明の便宜上「ㄹ 것 같다」と表記する。現在連体形「ㄴ(은)」は語幹が形容詞・指定詞の場合に用い、「는」は語幹が動詞・存在詞の場合に用いる。説明の便宜上「는 것 같다」と表記する。

<sup>3</sup> 他の表現に「웃 싶다」「웃 하다」「(나/가) 보다」などがある。

<sup>4</sup> 以下、日本語をjで、韓国語をkで表記する。

<sup>5</sup> 以下、例文の下線は筆者による。

ある内面の状態をうかがわせるような、あるいは、「何ごとかが起こる直前であることをうかがわせるような」ことを言うときに用いられるためだとしている。

また、「(し) そうだ」に前接するのが動的事象を表す動詞の場合、(4) aのように「近く起こることが予想される様相」を、(4) b、cのような状態的述語であれば、「内面についての推測、あるいは、ある内面をうかがわせる様相」を示すとした。

(4) a. 雨が降りソウダ。

b. コノ西瓜ハウマソウダ。

c. 元気ソウデス。

(寺村 (1984) : 237)

したがって、「(し) そうだ」は、「だろう」及び「ようだ」「らしい」より、外界の様相を直感的に描写する色彩が強く、頭で推量する色彩は最も薄いとされている。

## 2.2. 大場 (1999)

大場(1999)は、「(し) そうだ」を五つの用法に分類し、現実との関係からそれらをA、B、Cの三つに分けた。そして、「(し) そうだ」について、「話し手にとって非現実の事態に接続して、その事態が現実と接近していること」を表すと述べた。大場の分類を下の(表1)にまとめる。

(表1)

用法分類	例	現実との関係
推測	(地元の方言で話す人たちの中に一人だけ標準語の人を見つけて) あの人は <u>地元の人ではなさ</u> そう <u>だ</u> 。	A. 現存する事態への言及 (現在への言及)
様態	新郎も新婦も本当に <u>嬉し</u> そう <u>です</u> 。	
予測	台風 11 号は、今夜半過ぎ、日本列島に <u>上陸</u> し <u>そうです</u> 。	B. 起こる可能性がある事態への言及 (未来への言及)
寸前	棚からかばんが <u>落ち</u> そう <u>だよ</u> 。	
非実	こんなに緊張したのは初めてだよ。口から心臓が飛び <u>出し</u> そう <u>だ</u> 。	C. 現実にはあり得ない事態への言及 (反事実への言及)

また、(表1)での「推測」「予測」を、「はっきりとは言えないがたぶんそうだろう」という述べ方の「推量系」とし、「様態」「寸前」「非実」を、「描写することに力点がある」という「描写系」に分け、下の(表2)のようにまとめている。

(表2)

	A	B	C
推量系の用法	<推測>	<予測>	
描写系の用法	<様態>	<寸前>	<非実>

(大場 (1999) : 82)

ただし、推量系の用法と描写系の用法は、はっきり二つに分けられるというのではなく、推量

と描写のどちらに重点が置かれているかという分類に過ぎないとした。

### 2.3. 森山・他(2000)

森山・他(2000)は、「(し) そうだ」に「外への現れを通して、物の特性・状態を捉える用法(状況把握様相)」と「出来事態を予想させる様相を表す用法(出来把握様相)」があるとした。そして前者は、(6)のように形容詞と状態動詞から作られ、後者は、(7)のように動き動詞から作られるとした。

(6) このリンゴ、とてもおいしそうだ。

(7) あっ、荷物が落ちそうだ。 (森山・他(2000):154)

そして、「(し) そうだ」と「ようだ」は、両方とも様相を表す類似性が高い形式であるが、すぐに事態を否定する構文では違いが見られるとし、(8)(9)の例を挙げた。

(8) このリンゴ、{おいしそうだ/??おいしいようだ}が、本当はおいしくない。

(9) あの荷物、{落ちそうだ/??落ちるようだ}が、落ちない。 (森山・他(2000):155)

つまり、(8)(9)で「(し) そうだ」が言えるのは、「(し) そうだ」の主眼が、「観察様相・印象を述べることにある」ためであり、「ようだ」の主眼は「観察様相を通して観察様相を生んだ事態を捉えることにある」ため、両者には違いがあると述べた。

以上の先行研究は、いずれも、形容詞と状態動詞から作られる用法と、動作動詞から作られる用法に分けて分析を進めている。以下の韓国語との対照分析においても、上記の二つの用法を基準に分類して分析を行う。「(し) そうだ」が持っている特質をふまえて、さらに分析基準を増やし、条件文との共起、名詞への後接、過去との共起、後続文のキャンセルの可否、比喻・誇張表現との共起についても見ていく。

### 3. 「(し) そうだ」と韓国語の三つの形式における対応関係

森山・他(2000)は、「外への現れを通して、物の特性・状態を捉える用法」を「状態把握様相」、「出来事態を予想させる様相を表す用法」を「出来把握様相」と名づけている。また、大場(1999)は、「(し) そうだ」の用法を「推測」「様態」「予測」「寸前」「非実」の五つに分類した。これらは、推量系(「推測」「予測」と)、描写系(「様態」「寸前」「非実」)に分けられるが、はっきり分けられるというのではなく、「推量系」と「描写系」のどちらに重点が置かれているかの分類にすぎないとしている。

これらの分析に従い、韓国語の対応表現においても、「形容詞/状態動詞」と「動作動詞」を区別し、「(し) そうだ」が韓国語の三つの形式で訳される場合の各々の意味を見ていくことにする。

#### 3.1. 形容詞/状態動詞との共起から

本節では、まず、「(し) そうだ」が「形容詞／状態動詞」と共起した場合、「様態」「予測」「推量」の意味が現れることを確認する。そして、韓国語では「<sup>kess l a</sup>겠다」「<sup>i gcoi kat t a n</sup>은 것 같다」「<sup>ncun gcoi kat t a n</sup>는 것 같다」の三つの形式の中で、「(し) そうだ」が「様態」を表す場合は「<sup>kess l a</sup>겠다」がより類似した表現であり、「(し) そうだ」が「予測/推量」を表す場合は「<sup>i gcoi kat t a n</sup>은 것 같다」がより類似した表現であることを明らかにする。

(10) ~ (13) は「形容詞／状態動詞」が前接した例である。

(10) j : このリンゴ、おいしそうだ。( (1) の再掲 )

k : 이 사과 {<sup>m a siss kess l a</sup>맛 있 겠 다 / <sup>m a siss ssoi gcoi kat t a n</sup>맛 있 을 것 같 다 / <sup>m a siss ncun gcoi kat t a n</sup>맛 있 는 것 같 다}.

(11) j : この映画、面白そうだ。

k : 이 영화, {<sup>jae m i iss kess l a</sup>재 미 있 겠 다 / <sup>jae m i iss ssoi gcoi kat t a n</sup>재 미 있 을 것 같 다 / <sup>jae m i iss ncun gcoi kat t a n</sup>재 미 있 는 것 같 다}.

(12) j : 内藤のランクを押し上げることは難しそうだ。『一瞬の夏：沢木耕太郎』

k : 나이토우의 랭크를 올리는 것은 {<sup>o ryoo kess l a</sup>어 렵 겠 다 / <sup>o ryoo u i gcoi kat t a n</sup>어 렵 을 것 같 다 / <sup>o ryoo u n</sup>어 렵 은 것 같 다}.

(13) j : どうやら、気温のせいらしく、本格的な実験は、春を待つしかなさそうだ。

『砂の女：阿部公房』

k : 아무래도 기온 탓인 듯, 본격적인 실험은 봄을 기다리는 수 밖에 {<sup>o p kess l a</sup>없 겠 다 / <sup>o p ssoi gcoi kat t a n</sup>없 을 것 같 다 / <sup>o p ncun gcoi kat t a n</sup>없 는 것 같 다}.

(10) (11) j は、感覚器官である視覚を用いた情報を根拠に、その有り様の「様態」を表した文である。視覚を根拠にしている場合、その情報は話し手の頭の中に反射的にストックされ、見た瞬間の感覚で「あ、おいしそうだ」や「あ、面白そうだ」と発話している。視覚で認識した情報から発話までの間には証拠に基づく推測判断が下されるが、その推測する過程がほとんどないと言える。見た感覚をそのまま言う表現に近い。本稿ではこのような事態把握から発話まで推測する過程に着目する。そして推測する過程が短かく取られるか長く取られるかに焦点を当てて、推測する過程を「距離」と名付けて論を進める。(10) (11) j は推測する過程がほとんどないことから「距離が短い」と言える。

ところが、(12) (13) j の「予測/推量」を表す場合は、認識した情報から発話まで推測する過程が (10) (11) j の「様態」より長いと考えられる。(12) j は、ランクを上げるのが難しいという情報を事前に知っていて、これが推測の根拠になり、この根拠で推測する過程が生じる。内的な情報を根拠に、そのまま状況が進んでいけば、そうなるだろうという結果の「予測」である。つまり、根拠となる発話時以前の情報を用いて結果を予測するまでの過程が認められる。(13) j は、不確実であるが、やはり根拠があり、そこから導かれることを「推量」する文である。(13) j の「推量」においても、根拠となる内的情報とその情報を用いて推測する過程があり、瞬間的に描写・発話可能な「様態」にはない段階が認められる。これについても、「距離が長い」と言える。

このような考え方は、韓国語との対応関係を考える際に有用である。

(10) j ~ (13) j の「様態」「予測/推量」の「(し) そうだ」に対応する韓国語は、(10) k ~ (13) k のように、「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は使うことができるが、現在連体形を用いた「 $\overset{neun}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は使いにくい。この三つの韓国語の形式の使い分けは、上述した情報から発話までの距離で説明可能であることを述べる。

まず、「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は、通常「だろう」と訳されるが<sup>6</sup>、「(し) そうだ」の「様態」「予測/推量」と「比喩・誇張」の表現にも用いられる。「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は、「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」「 $\overset{neun}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」より確信度が高い形式で、ほぼ断定の確信を表す。このことは、「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」が、「 $\overset{a}{\text{ㄷ}} \overset{m\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ ,  $\overset{a}{\text{ㄷ}} \overset{m\grave{a}}{\text{ㄷ}} \overset{d\acute{o}}{\text{ㄷ}}$  (たぶん)」のような確信度が低い陳述副詞とは共起しないことから分かる<sup>7</sup>。確信度が高い判断であるということは、ある意味で概言性が低く、情報から判断して発話するまでの距離が短いと言え、それは「(し) そうだ」の「様態」での判断と繋がりを持つ。つまり、(10) (11) j のように「(し) そうだ」が「様態」を表すとき、認識した情報から発話までの距離がほとんどないのと同じように、「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」も確信度が高い形式であるため、そのような距離がほとんどない点で共通している。したがって、「(し) そうだ」が「様態」の用法で使われているときは、韓国語の「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」がより類似していると言える。

一方、「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は、未来連体形が使われ、まだ実現されていない事態の、これからの実現の可能性を表している。根拠となる内的情報を用いて推測するまでの距離が取られている。つまり、「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は、「(し) そうだ」が「予測/推量」を表すときに、より近い表現になる。したがって、「(し) そうだ」が「予測/推量」の用法で使われているときには、対応する韓国語は「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」がより適切であると言える。

これらに対して「 $\overset{neun}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」は、現在連体形が使われ、現在の事態が開始直前でも開始直後でも、総合的に判断し、現在の様子や経験したことに対する婉曲表現<sup>8</sup>に用いられる。そのため、「(し) そうだ」が事態把握から発話まで推測する過程が短いか、長いかで用法が説明されるのとは原理的に異なる。この場合は、通常「(し) そうだ」ではなく「ようだ」で訳されやすいと考えられる。

したがって、「(し) そうだ」が「形容詞/状態動詞」と共起するとき、「様態」を表す場合に対応する韓国語は「 $\overset{k\acute{e}ss}{\text{ㄷ}} \overset{l\grave{a}}{\text{ㄷ}}$ 」のほうがより適切であり、「予測/推量」を表す場合は「 $\overset{i}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」のほうがより適切な表現であることが明らかになった。

以上のことを(表3)にまとめる。

(表3)

<sup>6</sup> 「내일은 비가 오겠다」→「明日は雨が降るだろう。」

<sup>7</sup> 「\*아마 비가 오겠다」→「たぶん雨が降るだろう。」

<sup>8</sup> (10) k の「맛있는 것 같다」の婉曲表現で使う場合は、味見をした後、それほど美味しいと思わないが遠慮して「おいしいようだ」と言う場合である。황주하 (2015) は「 $\overset{neun}{\text{ㄷ}} \overset{g\acute{o}i}{\text{ㄷ}} \overset{k\grave{a}l\grave{t}\acute{t}\acute{a}}{\text{ㄷ}}$ 」について婉曲表現以外にも漠然とした無関心のような言い方、儀礼的な言い方で使われるとした。

(し) そうだ		<sup>goss t'a</sup> 겠 다 [겠 (様態素)+다 (叙述形)]	<sup>i eu   keot g'a i'n</sup> ㄷ / 을 것 같다 [未来連体形+것 같 다 (ようだ)]	<sup>n neun keot g'a i'n</sup> ㄷ / ㄴ 것 같다 [現在連体形+것 같 다 (ようだ)]
形容詞/状態動詞 (様態)	このリング、おいしい <u>そう</u> だ。	이 사과, <u>맛 있</u> 겠 다. -ほぼ断定	이 사과, <u>맛 있</u> 을 것 같다. -可能性	이 사과, <u>맛 있</u> ㄷ 것 같다. (このリング、おいしい <u>よう</u> だ) -婉曲表現
① 形容詞/状態動詞 (予測/推量)	内藤のランクを押し上げることは <u>難し</u> そう <u>だ</u> 。	나이토우의 랭크를 올리는데는 <u>어 렵</u> 겠 다. -ほぼ断定	나이토우의 랭크를 올리는데는 <u>어 렵</u> 을 것 같다. -可能性	나이토우의 랭크를 올리는데는 <u>어 렵</u> ㄷ 것 같다. (内藤のランクを押し上げることは <u>難</u> しい <u>よう</u> だ) -婉曲表現

(色が付いているところが「(し) そうだ」と類似している表現である。)<sup>9</sup>

### 3.2. 動作動詞との共起から

この節では、「(し) そうだ」が「動作動詞」と共起した場合、「寸前」「予測/推量」の意味が現れることを確認する。ただ、「寸前」については、ある動作が実現する直前の様態を表すもので、「寸前」も「様態」に含まれる。そのため、「形容詞/状態動詞」と同様に、「動作動詞」でも「様態」「予測/推量」が表れることを確認する。そして、それに対する韓国語の「<sup>goss i'n</sup>겠 다」「<sup>i keot k'a t'a</sup>ㄷ 같다」「<sup>n neun keot k'a t'a</sup>ㄷ 것 같다」という三つの形式の中で、「寸前」の意味を含む「様態」では、「<sup>goss i'n</sup>겠 다」のほうがより適切な形式であることや、「予測/推量」の意味では、「<sup>i keot k'a t'a</sup>ㄷ 것 같다」のほうがより適切な形式であることを明らかにする。「(し) そうだ」が動作動詞と共起した場合、「<sup>n neun keot k'a t'a</sup>ㄷ 것 같다」は使いにくい。

(14) ~ (18) は「動作動詞」が前接した例である。

(14) j : あっ、荷物が落ちそうだ。( (2) の再掲)

k : 아, 짐이 {떨 어 지 겠 다 / 떨 어 질 것 같 다 / \*떨 어 지 는 것 같 다}.

(15) j : 「見ろ！」と尾島が得意満面で、「俺が正しかったんだぞ！」とぐっとそり返った。

下手をすると、引っくり返りそうだ。 『女社長に乾杯！：赤川次郎』

k : 「봐」라고 오지마가 의기양양해서, 「내가 맞았지!」라고 몸을 뒤로 젖혔다. 잘못하다가는 뒤로 넘어 {지 겠 다 / 질 것 같 다 / \*지 는 것 같 다}.

(16) j : 電車がホームへ入って、人の塊が出口の方へと圧力を増し始める。降りる気でもなくとも、乗換駅なので降ろされそうだ。 『女社長に乾杯！：赤川次郎』

k : 전철이 홈으로 들어와, 많은 사람들이 출구 쪽으로 압력을 가하기 시작했다. 내릴 마음이 없어도, 갈아타는 곳이라 {밀 려 나 겠 다 / 밀 려 날 것 같 다} / \*

<sup>9</sup> 以下の表についても同様である。

밀려나 는 것 같다.}

(17) j :こんなに気持ちいいコースなら、何十キロでも走れそうだ。

『一瞬の夏：沢木耕太郎』

k : 이렇게 기분 좋은 코스라면, 몇 수 십킬로라도 {달릴 수 있겠다 / 달릴 수  
있을 것 같다 / \*달릴 수 있는 것 같다}.

(18) j : 스미はどうやら明日出発しそうだ。

k : 수미는 아무래도 내일 {출발 하겠다 / 출발 할 것 같다 / #출발 하는 것  
같다}<sup>10</sup>.

(14) j は、感觉器官である目でみて、荷物が落ちる寸前の「様態」を表す。(15) j も、ひっくり返る寸前の「様態」である。両方とも視覚を通じた反射的な反応で、視覚で認識した情報から発話までの距離はほとんどないといえる。(16) は、人ごみを目で見て、圧力を肌で感じ、さらに乗換駅ということを考えて、これから何が起こるかを「予測」した文であり、それがすぐ起こるといふ寸前の「様態」を表している。つまり、「予測」したものが、目の前ですぐ起こりそうだという「様態」を表した文で、この場合においても視覚で認識した情報から発話までの距離はほとんどないといえる。

これに対応する韓国語は、「겠다」「ㄷㄷ 것 같다」を使うことができるが、現在連体形を用いた「는 것 같다」は使いにくい。(14) ~ (16) k の「겠다」が使われた場合は、(14) ~

(16) j と同様に事態成立の緊迫感が感じられ、次に起こる動作が思い描かれる。視覚で認識した情報から発話までの距離が短いことがわかる。その反面、「ㄷㄷ 것 같다」が使われた場合は、「겠다」より緊迫感が弱く、次に起こる動作を思い描きにくい。そして、未来連体形が使われているため、これから起こる可能性を表している。つまり、根拠となる情報をストックして、その情報を用いて予測や推量するまでの距離が長く取られている。そのため「겠다」が「ㄷㄷ 것 같다」より「(し) そうだ」に類似している表現であると言える。

(17) は、いいコースであるという条件から考えられた「予測」の表現である。(18) は、ある情報を根拠にして推測している。(17) (18) は「寸前」の意味にならない。つまり、「予測/推量」を表す場合は、発話以前の情報を用いて予測や推量するまでの距離が取られている。これに対応する韓国語 (17) k は条件で起こる可能性を表していることで「ㄷㄷ 것 같다」が、(18) k は「どうやら」の副詞を伴う推測表現として「ㄷㄷ 것 같다」が「(し) そうだ」に類似している表現であると言える。

「는 것 같다」が、(17) ~ (18) k のように動作動詞と共起する場合は、現在そういう状態であるという場面を差し出す。そして、その動作が現在起こっていることを表す。(19) k の「는 것 같다」を日本語に訳すと、(19) j のように「~ようだ」の意味により近い。

(19) k : (밖에서 뭔가 물방울 떨어지는 소리를 듣고 그것이 무엇인지 모를 때)

<sup>10</sup> 「#」は、文の成立が、場面によって可能な場合の表記である。



뭔가 떨어지는 것 같다.

j : (外で何か水滴が落ちる音を聞いてそれが何か知らないとき)

なにか落ちたようだ。

したがって、「(し) そうだ」が「動作動詞」と共起するときは、「形容詞/状態動詞」と同様に、「様態」を表す場合は「<sup>kess</sup>다」のほうがより適切であり、「予測/推量」を表す場合は「<sup>ccot</sup> 것 같다」のほうがより適切な表現であることが明らかになった。

以上のことを(表4)にまとめる。

(表4)

(し) そうだ		<sup>kess</sup> 다 [ <sup>kess</sup> (様態素)+ <sup>da</sup> (叙述形)]	<sup>ccot</sup> /을 것 같다 [未来連体形+ <sup>ccot</sup> 것 같다(ようだ)]	<sup>ccot</sup> /는 것 같다 [現在連体形+ <sup>ccot</sup> 것 같다(ようだ)]
②	動作動詞 (様態)	아, 짐이 떨어 치 <sup>kess</sup> 겠다. -緊迫感	아, 짐이 떨어 질 <sup>ccot</sup> 것 같다. -「 <sup>kess</sup> 다」より緊迫感 は落ちる。	*짐이 떨어 는 <sup>ccot</sup> 것 같다. (荷物が落ちてい るようだ)
	動作動詞 (予測/推量)	수미는 아무래도 내일 출발 <sup>ccot</sup> 하 <sup>ccot</sup> 겠다. -緊迫感は落ちる	수미는 아무래도 내일 출발 <sup>ccot</sup> 하 <sup>ccot</sup> 질 것 같다. -可能性	#수미는 아무래도 내일 출발 <sup>ccot</sup> 하 <sup>ccot</sup> 는 <sup>ccot</sup> 것 같다. (수미는, どうか 明日出発するよう だ.) -婉曲表現

### 3.3. 条件との共起

「(し) そうだ」が条件と共起する場合は、(20)、(21) j のように、様態の意味にはならず、「予測/推量」の意味になる。また、「(し) そうだ」が条件と共起する文は、(20) '、(21) ' j のように「～ていれば」と共起しない。なぜなら、「(し) そうだ」はまだ実現していないことを表す表現なので、条件も同じように実現されていないことが前提になるが、「～ていれば」と共起すると、現在の状態が続いていることが条件になってしまうため、後続文と矛盾が起こるからである。

(20) j : 霧が晴れば、いい天気になり<sup>ccot</sup>そうだ。(森山・他 (2000))

k : 안개가 걷히면 날씨가 {<sup>ccot</sup>좋아지<sup>ccot</sup>겠다 / 좋아질<sup>ccot</sup> 것 같다 / \*<sup>ccot</sup>좋아지는<sup>ccot</sup> 것 같다}.

(20) ' j : \*霧が晴れてい<sup>ccot</sup>れば、いい天気になり<sup>ccot</sup>そうだ。

k : \*안개가 <sup>ccot</sup>걸히고 <sup>ccot</sup>있으면 날씨가 {<sup>ccot</sup>좋아지<sup>ccot</sup>겠다 / 좋아질<sup>ccot</sup> 것 같다 / <sup>ccot</sup>좋아지는<sup>ccot</sup> 것 같다}.

(21) j : さかんに揺れば、あの荷物は落ち<sup>ccot</sup>そうだ。

k : 심하게 흔들리면, 저 짐은 {떨어지<sup>ccot</sup>겠다 / 떨어질<sup>ccot</sup> 것 같다 / \*떨어지는<sup>ccot</sup> 것 같다}.

갈다}).

(21) ' j : \*さかんに揺られていれば、あの荷物は落ちそうだ。

k : \*심하게 흔들리고 있으면, 저 짐은떨어지겠다 / 떨어질 것 같다 / 떨어치는 것 같다}.

これらに対する韓国語では、「겠다」「ㄴ 것 같다」は使われるが、現在連体形を用いた「ㄴ 것 같다」は使われない。「겠다」を用いると、条件に従った推測結果を表し、「形容詞／状態動詞」や「動作動詞」と同様に、事態に対する判断の成立までの距離が短いことがわかる。

これに対して「ㄴ 것 같다」は、その条件に対する可能性を表す。つまり、「形容詞／状態動詞」や「動作動詞」と同様に、発話以前の情報を根拠に、その情報を用いて予測や推量するまでの距離が長く取られている。また、(20) ' k、(21) ' kも、(20) ' j、(21) ' jと同様の理由で非文になる。

したがって、「(し) そうだ」が条件文と共に起する文は、「予測/推量」の意味を表し、「겠다」より「ㄴ 것 같다」のほうがより適切な表現であることが明らかになった。

(表5)

(し) そうだ		<u>겠</u> 다 [ <u>겠</u> (様態素)+ <u>다</u> (叙述形)]	<u>ㄴ</u> /을 <u>것</u> <u>같</u> 다 [未来連体形+ <u>것</u> <u>같</u> 다(ようだ)]	<u>ㄴ</u> /는 <u>것</u> <u>같</u> 다 [現在連体形+ <u>것</u> <u>같</u> 다(ようだ)]
③ 条件文との 共起 (予測/推量)	霧が晴れれば、いい天気になり <u>そう</u> だ。	안개가 걷히면 날씨가 좋 <u>아</u> <u>치</u> <u>겠</u> 다. -推測結果	안개가 걷히면 날씨가 좋 <u>을</u> <u>것</u> <u>같</u> 다. -可能性	x
	さかんに揺れれば、あの荷物は <u>落ち</u> <u>そう</u> だ。	크게 흔들리면, 저 짐은 <u>떨어</u> <u>치</u> <u>겠</u> 다. -推測結果	크게 흔들리면, 저 짐은 <u>떨어</u> <u>질</u> <u>것</u> <u>같</u> 다. -可能性	x

### 3.4. 名詞への後接

「(し) そうだ」は名詞に後接しないが「겠다」「ㄴ 것 같다」「ㄴ는 것 같다」は指定詞<sup>11</sup>を使って後接する。この場合の「겠다」は「だろう」の意味に近く、「ㄴ 것 같다」「ㄴ는 것 같다」は「～ようだ」の意味に近い。

(22) k : 저 사람은 {학생이 겠다 / 학생일 것 같다 / 학생인 것 같다}.

j : あの人は学生のようだ。

(表6)

(し) そうだ		<u>겠</u> 다 [ <u>겠</u> (様態素)+ <u>다</u> (叙述形)]	<u>ㄴ</u> /을 <u>것</u> <u>같</u> 다 [未来連体形+ <u>것</u> <u>같</u> 다(ようだ)]	<u>ㄴ</u> /는 <u>것</u> <u>같</u> 다 [現在連体形+ <u>것</u> <u>같</u> 다(ようだ)]

<sup>11</sup> 指定詞は用言の一つで、名詞に「이다(である)」を付けたものである。

④	名詞への後接	×	저 사람은 <u>학'생'이'겠'다.</u> (あの人は学生だろう) -ほぼ断定	저 사람은 <u>학'생'일'것'같'다.</u> (あの人は学生のようだ) -可能性	저 사람은 <u>학'생'인'것'같'다.</u> (あの人は学生のようだ)
---	--------	---	---	---	---

3.5. 過去形との共起

「(し) そうだ」は、「(し) そうだった」のように過去形と共起できる。(25) j)のように過去形を用いた「(し) そうだった」が「動作動詞」と共起した場合、非実現の意味を表す。これに対して、(23) (24) j)の「形容詞/状態動詞」と共起した場合は、そのような意味にならない。<sup>12</sup>

「(し) そうだった」のように、韓国語の「ㄷ 것 같 다」と「ㄴ 것 같 다」は過去形と共起できる。「겠 다」は過去形を持たない<sup>13</sup>。

「ㄷ 것 같 다」は、過去の形態素「았」を用いて、「ㄷ 것 같 았 다」になり、過去の視点での可能性を表す。日本語と同じように、(25) k)では非実現の意味になる。(23) (24)のk)のように、「形容詞/状態動詞」と共起した場合は、そのような意味にならない。

一方、「ㄴ 것 같 다」は、過去の形態素「았」を用いて、「ㄴ 것 같 았 다」になるが、現在連体形「ㄴ」と過去の形態素「았」が共起するため、過去における状態を表わす。

(23) j) : ひとりで起きるのは辛そうだった。

k) : 혼자서 일어나는 것은 {\*괴롭겠었다 / 괴로울것같았다 / #괴로운것같았다 .

(24) j) : カーテンの隙間から、朝の光が割り込んで来て、今日も蒸し暑い一日になりそうだった。  
『女社長に乾杯！：赤川次郎』

k) : 커튼 틈새로, 아침 햇살이 들어오는 걸 보니, 오늘도 무더운 하루가 {\*되겠었다 / 될것같았다 / #되는것같았다 } .

(25) j) : 涙が出そうだった。

k) : 눈물이 {\*나겠었다 / 날것같았다 / #나는것같았다 } .

(表7)

		(し)そうだ	<u>겠</u> <u>다</u> [ <u>겠</u> (様態素)+ <u>다</u> (叙述形)]	<u>ㄷ</u> / <u>을</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>다</u> [未来連体形+ <u>것</u> <u>같</u> <u>다</u> (ようだ)]	<u>ㄴ</u> / <u>는</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>다</u> [現在連体形+ <u>것</u> <u>같</u> <u>다</u> (ようだ)]
⑤	過去との共起	一人で起きるのは <u>辛</u> そうだった。	×	혼자서 일어나는 것은 <u>괴</u> <u>로</u> <u>울</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>았</u> <u>다</u> . -可能性	# 혼자서 일어나는 것은 <u>괴</u> <u>로</u> <u>운</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>았</u> <u>다</u> . (一人で起きるのは辛いようだった)

<sup>12</sup> 森山・他 ((2000) : 155)

<sup>13</sup> 「겠다」の前に過去形を表す形態素「았/었」を用いて、過去推量を表すことは可能であるが、「겠다」自体は過去形にならない。

	涙が出そう だった。	×	눈물이 <u>떨</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>다</u> . -非実現	# 눈물이 <u>나</u> <u>를</u> <u>것</u> <u>같</u> <u>았</u> <u>다</u> . (涙が出るようだった)
--	---------------	---	--	---

3.6. 後続文のキャンセルの可・不可

「(し) そうだ」は、後続文でのキャンセルが可能である。それに対して、「<sup>kess t a</sup> 겠다」と「<sup>neun keot ka lla</sup> 는 것 같다」はキャンセルが不可能である。「<sup>kess t a</sup> 겠다」を使うと、ほぼ断定に近い判断であるため、その後すぐにキャンセルすることは難しくなる。「<sup>neun keot ka lla</sup> 는 것 같다」には現在の形態素が含まれており、現在の判断を表す表現である。したがって、その判断結果を直後にキャンセルすることはやはり難しい。つまり「～ようだ」に近い意味になる<sup>14</sup>。一方、「<sup>keot ka lla</sup> 겠다」は、可能性を表すだけなので、キャンセルがしやすい。

(26) j : このリンゴおいしそうだが、実はおいしくない。

k : 이 사과 { \*<sup>m a siss kessneun m a siss keot keot ka lla</sup> 맛 있 겠 는 / <sup>m a siss keot keot ka lla</sup> 맛 있 을 것 같 은 / ?<sup>m a sissneun keot ka lla</sup> 맛 있 는 것 같 은 } 때, 사실은 맛이 없다.

(27) j : 荷物が落ちそうだが、落ちない。

k : 짐이 { \*<sup>tteo r eo j i gessneun tteo r eo j i keot ka lla</sup> 떨어 지 겠 는 / <sup>tteo r eo j i keot ka lla</sup> 떨어 지 을 것 같 은 / \*<sup>tteo r eo j i neun keot ka lla</sup> 떨어 지 는 것 같 은 } 때, 안 떨어진다.

(表8)

(し)そうだ		<sup>kess t a</sup> 겠다 [ <sup>kess t a</sup> 겠 (様態素)+다 (叙述形)]	<sup>keot ka lla</sup> /을 것 같다 [未来連体形+ <sup>keot ka lla</sup> 것 같다(ようだ)]	<sup>neun keot ka lla</sup> /는 것 같다 [現在連体形+ <sup>keot ka lla</sup> 것 같다(ようだ)]
⑥ 後続文の キャンセル 可・不可	このリンゴ、 おいしそう だが、本当は おいしくな い。	×	이 사과, <u>맛 있 을</u> <u>것 같</u> <u>지만</u> , 사실은 <u>맛 있</u> <u>지 않</u> <u>다</u> . -可能性	?이 사과, <u>맛 있</u> <u>는 것 같</u> <u>을</u> <u>때</u> , 사실은 <u>맛 있</u> <u>지 않</u> <u>다</u> .
	荷物が <u>落ち</u> <u>そうだが</u> <u>、落ちない</u> 。	×	짐이 <u>떨</u> <u>어 지</u> <u>것 같</u> <u>지만</u> , <u>떨</u> <u>어 지</u> <u>지 않</u> <u>다</u> . -可能性	*짐이 <u>떨</u> <u>어 지</u> <u>는 것 같</u> <u>을</u> <u>때</u> , <u>떨</u> <u>어 지</u> <u>지 않</u> <u>다</u> .

3.7. 比喩・誇張表現

「(し) そうだ」の「比喩・誇張表現」について、寺村(1984)は、自分の身体の調子を表す場合において、「元来は客観的な様態の表現を自分のことという誇張した表現だといってよい」と述べた。

<sup>14</sup> 「\*雨が降っているようだが、降っていない。」

「(し) そうだ」と韓国語三つの形式の対応関係

3.2. で述べたように韓国語では、「<sup>kess l'a</sup>줬다」が最も「寸前」の意味を表すのに適した表現なので、比喩・誇張表現で使われやすい。「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」は、その可能性が高いことを述べる表現であるため、「<sup>kess l'a</sup>줬다」より比喩・誇張を表す機能は弱い。また、「<sup>neun gcoi ka l'a</sup>ㄴ 것 같다」は「比喩・誇張表現」の意味にはならない。

(28) j : 腹がへって死にそうだ。

k : 배가 고퍼 {<sup>ik kess l'a</sup>죽<sup>l'a</sup>줬다 / <sup>i u gcoi gcoi ka l'a</sup>죽을 것 같다 / \*<sup>ku neun gcoi ka l'a</sup>죽는 것 같다}.

(29) j : ああ、もう気が狂いそうだ。 (寺村 (1984) : 241)

k : 아아, {<sup>m i c h i g e s s l ' a</sup>미치<sup>l'a</sup>줬다 / <sup>m i c h i l g c o i k a l ' a</sup>미칠 것 같다 / \*<sup>m i c h i n e u n g c o i k a l ' a</sup>미치는 것 같다}.

(表9)

		(し)そうだ	<sup>g e s s l ' a</sup> 줬다 [ <sup>g e s s</sup> 줬(様態素)+ <sup>l ' a</sup> 다 (叙述形)]	<sup>i c u l g c o i g a l ' a</sup> ㄷ/을 것 같다 [未来連体形+ <sup>g c o i</sup> 것 같다(ようだ)]	<sup>n e u n g c o i g a l ' a</sup> ㄴ/는 것 같다 [現在連体形+ <sup>g c o i</sup> 것 같다(ようだ)]
㉠	比喩・誇張表現	腹がへって死に <u>そう</u> だ。	배고퍼 <u>죽</u> 줬다	배고퍼 <u>죽</u> 을 것 같다.	x

4. まとめ

「(し) そうだ」に対応する韓国語の三つの形式「<sup>kess l'a</sup>줬다」「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」「<sup>neun gcoi ka l'a</sup>ㄴ 것 같다」を取り上げ、その関係を以下のように説明した。

「(し) そうだ」は、「形容詞/状態動詞」と「動作動詞」に前接した場合、「様態」と「予測/推量」の意味を表すことを確認した。そして、「様態」を表す「(し) そうだ」は認識した情報から発話までの距離が短く、「予測/推量」を表す「(し) そうだ」は内的情報から発話までの距離が「様態」の場合より長く取られていることを探った。

これに対する韓国語の形式のうち、「様態」の意味に最も近い形式は「<sup>kess l'a</sup>줬다」で、認識した情報から発話成立までの距離が短く、ほぼ断定したり、緊迫感を伴った推測結果の意味で現れる。「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」は、未来連体形「<sup>i</sup>ㄷㄹ」を用いて可能性を表すため、内的情報から発話成立までの距離が長く取られている。これは、「(し) そうだ」が「予測/推量」を表す場合と同様である。そして、「(し) そうだ」が「予測/推量」を表す場合、「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」が最も類似する表現になる。また、条件と共起した「(し) そうだ」が表す推量の意味においても、「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」のほうが「(し) そうだ」の意味により近くなる。

「<sup>neun gcoi ka l'a</sup>ㄴ 것 같다」は、現在連体形「<sup>neun</sup>ㄴ」を用いて、現在の事態が開始直前でも開始直後でも、総合的に判断し、現在の様子や経験したことに対する婉曲表現に用いられる。そのため、「(し) そうだ」より「ようだ」により近い。

したがって、「(し) そうだ」に対応する三つの韓国語では、認識した情報から発話までの距離によって、「<sup>kess l'a</sup>줬다」と「<sup>i gcoi ka l'a</sup>ㄷㄹ 것 같다」が使い分けられていることが明らかになった。

《参考文献》

● 日本語の論文

大場美穂子(1999)「いわゆる様態の助動詞「そうだ」の意味と用法」『東京大学留学センター紀要』第9号  
菊地康人(2000)「「ようだ」と「らしい」—「そうだ」「だろう」との比較も含めて—」『国語学』第51巻1号

菊地康人(2000)「いわゆる様態の「そうだ」の基本的意味—あわせて、その否定各形の意味の差について—」『日本語学』107号

ケキゼ・タチアナ(2000)「「(～)し そうだ」の意味分析」『日本語教育』107号

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』くろしお出版

仁田義雄・他(2003)『現代日本語文法4—第8部モダリティ—』くろしお出版

野間秀樹(1988)「〈하겠다〉の研究—現代朝鮮語の用言の mood 形式をめぐって—」『朝鮮学報』第129輯

益岡隆志・田窪行則(1992)『基礎日本語文法』くろしお出版

村田寛(1998)「〈連体形+것 같다〉をめぐって—現代朝鮮語のムード形式の研究—」『朝鮮学報』第168輯

早津恵美子(1988)「「らしい」と「ようだ」」、『日本語学』Vol.7 明治書院

森山卓郎・仁田義雄・工藤浩(2000)『モダリティ』岩波書店

● 韓国語の論文

李基用(1978)「「겠」의 重義性 反論」『国語学資料論文集』第4輯

이기중(2001)『우리말의 인지론적 분석』도서출판 역락

장경희(1985)『現代國語의 樣態範疇研究』탐출판사

황주하(2015)「상황 맥락을 고려한 한국어 추측 표현 연구- ‘-것 같다’ ‘-을 것이다’ ‘-겠-’ 을 중심으로-」『새국어 교육』제102호

● 実例の出典—以下は CD-ROM 版『新潮文庫の百冊』1995 より／対訳は本稿の筆者による。

『一瞬の夏』沢木耕太郎、『女社長に乾杯!』赤川次郎、『砂の女』阿部公房